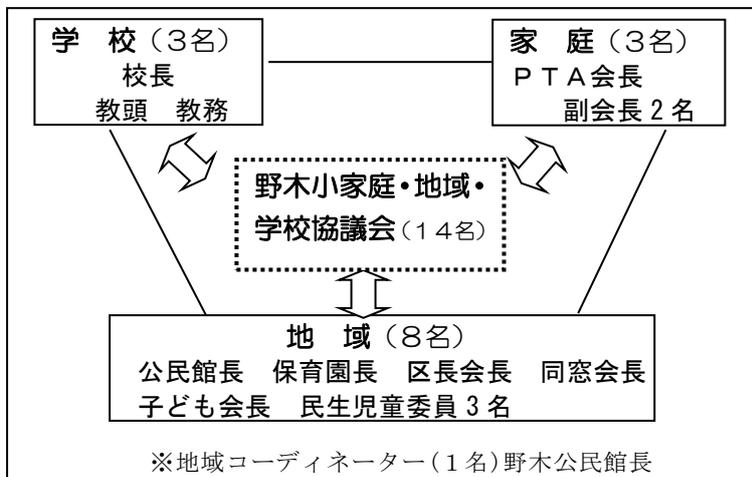


# 令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

若狭町立野木小学校

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



### (2) 協議会の内容

- ①開催回数 2回
- ②開催日程  
第1回 5月31日  
第2回 2月19日
- ③協議内容
  - ・スクールプランの共通理解
  - ・評価内容の改善
  - ・外部指導者の充実
  - ・登下校の安全対策 等

### (3) 協議会における成果と課題

協議会での話し合いで、家庭・地域・学校が連携してどのような活動ができるか共通理解を図ることができ、様々な教育活動において地域や保護者の方々に支援していただくことができた。そのおかげで充実した教育活動が行えたことと働き方改革の視点から教職員の負担軽減につながったことが大きな成果である。課題としては毎年同じ活動を続けるのではなく、評価を踏まえての改善を行うことでよりよい活動にしていくことが大切である。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

○地域と連携した活動を通してふるさとの良さに気づき、ふるさとへの愛着と誇りを持つ児童を育てる。

### (2) 活動の実際

#### ①特別養護老人ホームの利用者の方々との交流【5・6年生】

利用者の方との交流を図るために、ハンドマッサージ体験を行った。事前に学校で友達の手を使って練習した。実際にお年寄りの方の手をマッサージするのはとても緊張したと思われるが、相手の反応を見ながら「痛くないですか?」「次は手のひらをマッサージしますね。」など上手にコミュニケーションをとりながら行うことができた。事後の児童の振り返りには「初めは緊張したけど、話している間に楽しくなってきた。」など、喜びの感想が多かった。利用者の皆さんに大変喜んでもらい、児童にとって充実感のある体験になった。

#### ②フラワー交流【3・4年生】

春と秋に、地域の一人暮らしの高齢者に花とメッセージを贈った。地域支え合い連絡会の方々に教わりながら花の苗を植木鉢に植え替え、メッセージと名前入りカードを添えた。花を贈った方の家に見に行ったり、見かけたら声をかけたりするなど関わりが増えた児童もいた。加えて、花を贈った高齢者に暑中見舞いや年賀状を送ったりしたことで地域の高齢者の方々とさらに交流が深まった。



(様式3)

### ③米作り【4・5年生】

5月16日に地域の公民館や老人会の方々に  
お世話になり、「野木っ子農園」で田植えを行  
った。最初に苗の植え方を丁寧に教えていた  
だき作業に入った。はじめは泥に足をすくわ  
れて手間取っていたが、地域の方々のサポー  
トのおかげで徐々に慣れ、積極的に苗植え  
に取り組むようになった。苗を植えた後は、  
「野木っ子農園」に定期的に出かけ、苗の  
成長や田んぼの様子を観察した。稲が大き  
く育って、穂が実っていく様子に、稲刈り  
への期待を膨らませた。



9月6日に稲刈りを行った。公民館や老人  
会の方にお世話になり、稲を束にしたり、  
稲木にかけたり、落ち穂を拾ったりとそれ  
ぞれ作業を分担し、意欲的に活動した。稲  
刈り後には、老人会の方と児童で交流会  
を行った。児童は稲刈りの感想を発表し、  
老人会の方々は昔の稲刈りの思い出など  
を語ってくださった。米作りの活動を通  
して、お世話になった老人会を中心とし  
た地域の方々に感謝の気持ちを持ち、お  
米を感謝して食べたいという児童が増え  
た。



### (3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・地域学校協働活動に対する適切な助言や活動に必要な人材の確保
- ・活動に協力していただける地域の方々との連絡調整

### (4) 特に工夫した事項

地域の老人ホームを訪問する際には事前・事後学習にしっかりと取り組み、高齢者や障がいのある方々に関する理解と地域に住む高齢者や障がいを抱えた方々にとって住みやすい町に  
していただくためにどのようにしていくべきかという視点を持たせた上で活動を行った。

また、米づくりの活動では、単なる農業体験で終わってしまうのではなく、社会科の農業の  
学習との関連を十分に図り、体験したことが学習に活かされるように、ねらいを明確にした上  
で活動し、振り返りを行った。

### (5) 成果と課題

一番大きな成果は、子供たちが地域の方々と交流することで、人とのつながりの中で学びを  
深めることができたということである。どの学年も学習中は笑顔に溢れ、自分たちの住む地域  
についての知識を深めることができた。このような体験を積み重ねることでふるさとを愛する  
心を養っていけると考えている。

課題は、これから取り組みを教育課程に系統的に位置づけて継続して取り組んでいくことだ  
と考える。今後、子供たちがふるさとを愛し、大切にするための教育を1年生から実践し意識を  
向上させていきたい。